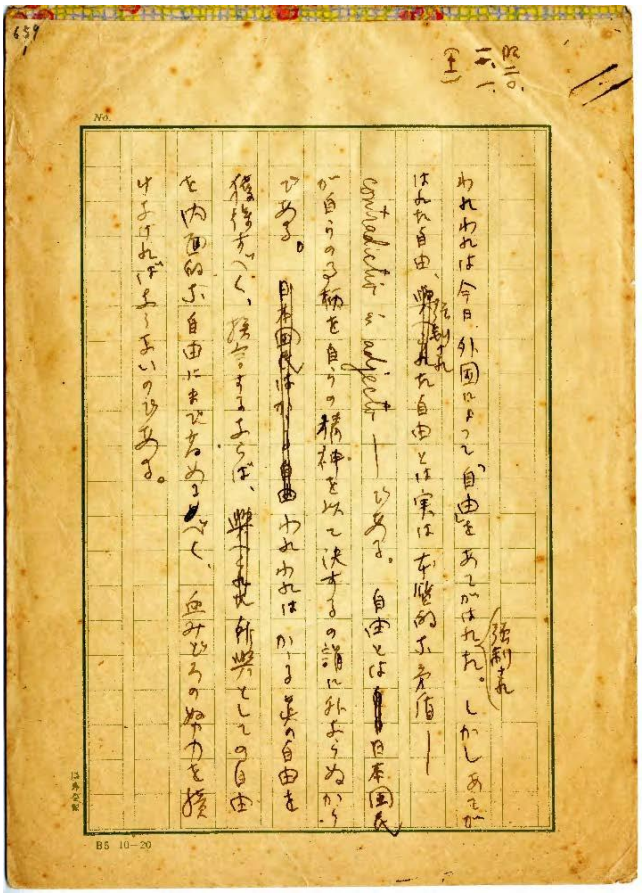
(5)戦後の出発



復員してから１カ月半後の 1945（昭和 20）年 11 月 1 日、丸山は戦後最初の講義を開始した。その冒頭のことばは、戦後の丸山の問題関心の所在を示すものであった。

> われわれは今日、外国によって「自由」をあてがはれ強制された。しかしあてがはれた自由、強制された自由とは実は本質的な矛盾――contractio in adjectio――である。自由とは日本国民が自らの事柄を自らの精神を以(もっ)て決するの謂(いい)に外ならぬからである。われわれはかゝる真の自由を獲得すべく、換言するならば、所与としての自由を内面的な自由に高めるべく、血みどろの努力を続けなければならないのである。（1945 年 11 月 1 日講義原稿〈丸山文庫草稿類資料 659〉：画像）

占領軍によって与えられた「自由」を自分たち自身のものにしていくこと――これが、戦後の丸山の思想と行動を貫く課題であった。その歩みは、のちに「開かれた社会」と呼ばれることになる社会のあり方をめざすものだった。